

第67回 AI活用は、タダで、いつでも、どこでも・・・。

前回メルマガから2か月で、いわゆる「生成AI」であるChatGPTとGoogle Bardが社会に与える衝撃はますます大きくなっています。とりわけ、中小企業や個人事業者が、AIによって生産性を飛躍的に向上したり、新しいビジネスを創造したりすることが始まっています。

これら生成AIは、インターネットにつながっているパソコンなどがあれば、設備投資も、IT技術者も、必要ありません。今すぐ、タダで使い始めることができます（ChatGPTは有料版もあります）。まさに「いつでも、どこでも、誰でも」です。資金や技術力に乏しい中小事業者も、その気になりさえすればすぐに活用し始めることができます。

ただし、前回の復習ですが、いくつかの留意点があります。「個人情報、営業秘密などは入力しない（入力データがAI側のサーバーに送られてしまうから）」「回答は鵜呑みにせず、必ずチェックする（誤りや、偏見を含んだ回答もありうるから）」「著作権などに注意（元データが他者の著作物である可能性もあるから）」です。

これだけ気をつければ、あとはどう使っても大丈夫です。

ちなみにIT技術者でもない零細個人事業者の筆者も毎日、「遊び半分」も含めて使っています♪。

前回に続き、試していただきたいプロンプト（指示文）を紹介します。

どちらも、1回のプロンプトで終らせず、修正の指示や、追加の指示をしてゆくことで、有用な成果物に近づけていきます。

①「北海道の地方都市でパンを製造・販売している、障がい者就労支援の事業所です。みんなの創意工夫で新しいパンを作り、商店街の空き店舗に新しい店を開いて、地域にも貢献する、という小説を、地元新聞に連載したいと思います。そのあらすじを400字で考えてください。」→「もっと感動的に」→「ファンタジー風にして」→「その小説を、新聞の編集者に売り込むトークを考えて」

②「障がい者就労支援の事業所です。現在、印刷業を中心にしています。加えて、デジタルコンテンツ制作業を始めたいと提案したとき、どのような反対意見が出るか、3つ予想してください。」→「それぞれの反対意見に対する、反論を考えてください。」→「もっと、穏やかな表現にしてください。」→「もっと、情に訴える表現も作ってください。」

これらはもちろんイメージ例です。まずは「遊び半分」のつもりでも、こんな感じのことを試していけば、AIに対する拒否感も薄れ、いずれ本格的に活用してゆくことができるのではないのでしょうか。

（2023年10月9日現在の状況により執筆しています。AIツールをめぐる情勢は刻々と変化していますのでご注意ください。

なお、この記事は、今のところは、人間が執筆しています。）